

大会規定

1. 競技規則

- (1) 現行の（公財）日本バドミントン協会競技規則に準じて行うが、得点制限を設ける。
- (2) すべての試合を21イント3ゲームマッチで行う。
延長ポイントは最大30ポイントまでとする。
- (3) シャトルは（公財）日本バドミントン協会2種検定合格水鳥球を使用する。

2. 競技方法

- (1) すべてトーナメントで行う。
- (2) トーナメント1日目のブロックごとの1位と2位が2日目に進む。
- (3) トーナメント2日目は決勝と同時に3位決定戦を行う。
- (4) 決勝の敗者と、3位決定戦の勝者が2位決定戦を行う。
- (5) 2位決定戦が準決勝と同じ組み合わせの場合は、2位決定戦を行わない。

※この予選会の上位2名が、下記の全日本ジュニアの本戦（ジュニア新人の部）の参加資格を得ることとする。

大会名：JOC ジュニアオリンピックカップ

第44回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

期日：令和7年9月12日（金）～15日（月）

場所：北海道釧路市 ウインドヒルくしろスーパーアリーナ
釧路町総合体育館

3. 競技上の注意

- (1) 意図的に試合進行を遅らせる行為は厳禁とする。汗ふきや靴ひもの締め直し、ラケット交換等は必ず主審の許可を得ること。
- (2) 審判への抗議は認めない。不審な点があれば、該当選手が主審に礼儀正しく質問すること。
- (3) 試合中の給水についてはインターバル中を原則とする。その際、ふたが確実にしまり倒れてもこぼれない容器を使用するとともに水滴が床につかないようにすること。
- (4) 予備のラケット、着替え、飲み物等は、各自バッグ等を用意してコートサイドに置くこと。タオルや着替えを直接床に置くことは厳禁とする。

4. 審判上の注意

- (1) 2試合ずつセットにして、試合と審判を指定されたコートで互いに行う。本部から渡されたスコアシートの試合番号が若い試合から行う。
- (2) 審判は対角線での審判とする。一人は線審と主審を兼ねる。もう一人は線審と得点板を兼ねる。
- (3) 男女共に4回戦で敗退した選手がブロック決勝の審判を行う。
- (4) 試合が終了したら、勝った選手がスコアシートを本部に戻すこと。
- (5) 主審が判断できない場合は、大会本部の助言、判断を仰ぐこと。

5. その他

- (1) 選手は上衣背面に、縦20cm、横30cmの範囲内に学校名（クラブ名）・姓を表示したゼッケンをつける。
- (2) 上衣は短パンの中に入れる。
- (3) 生徒指導上問題のある生徒の参加は認めない。
- (4) 朝の練習時間を次のようにする。（準備の関係で変更することもあります。）
9：20～9：25（Aブロック）以降5分ごとにDブロック、Cブロック、Bブロックの順で行う。